

◇ 第54回薬剤師実践塾 研修会報告 ◇

日 時	2019年8月4日(日) 10:00～15:35
場 所	神戸薬科大学 地域連携サテライトセンター
テ ー マ	地域で多職種連携するための、スキル、心構え、事前準備
講 師	特定非営利活動法人エナガの会 (本学と連携している神戸市垂水区の地域包括ケアシステムにおける多職種連携を推進する団体)
受講資格	現役の薬剤師
受講者数	31名(本学学生14名(※実践薬学受講生)含む)

【タイムテーブル】

10:00～11:30	「我々は、何を見て、考えて、行動しているのか?」(在宅医と多職種による講演) NPO法人エナガの会
11:30～12:20	休憩
12:20～15:35	「そこまで言って委員会2019」(全員参加型のシンポジウム) NPO法人エナガの会 パネリスト (薬剤師・往診医師・訪問看護師・訪問介護員 介護支援専門員・施設相談員 他 の方々)
15:35	閉会、アンケート記入回収、単位シール交付 終了

【研修風景】



特定非営利活動法人エナガの会
代表理事 中村 治正 先生
(なかむらクリニック 院長)からの開会ご挨拶

エナガの会が考える多職種連携の定義

多職種連携は、
目的を共有した複数の人や機関（非専門職を含む）が、
単独では解決できない課題に対して、
自主的に協力関係を作りながら、
目的達成に向けて取り組む、相互関係のプロセスである。

多職種連携の実体は、常に動き、変化するものである。
知識・価値観・思いを共有した「顔の見える関係」の中でこそ
実現する。



1枚の『処方箋』から、在宅医療・介護支援を考える
 <在宅医と多職種による講演>
在宅支援における多職種の視点と関わり
 ～ 神戸令和さん(仮名)への在宅療養支援より ～



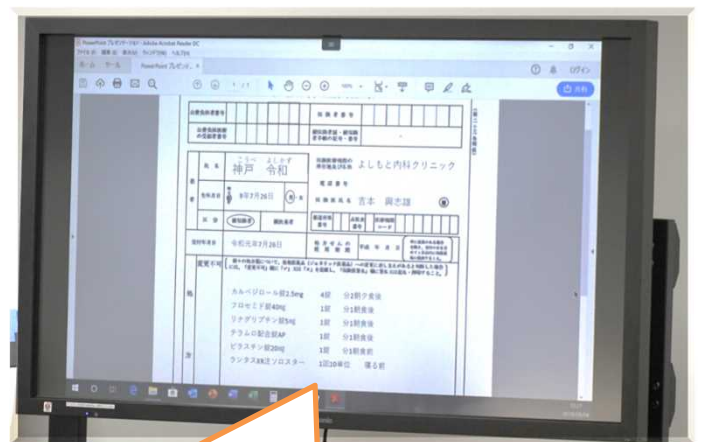
福田デイサービスセンター 彩樹の家
 社会福祉主事 常深 裕司 様による司会進行



一般社団法人 垂水区薬剤師会
 会長 勢力 吉廣 先生



藤井内科クリニック
 院長 藤井 芳夫 先生



あなたの勤務する薬局に1枚の処方箋が届きました。
 新しい患者さんです。
 処方箋の内容から、どんなことが見えてくるでしょうか？

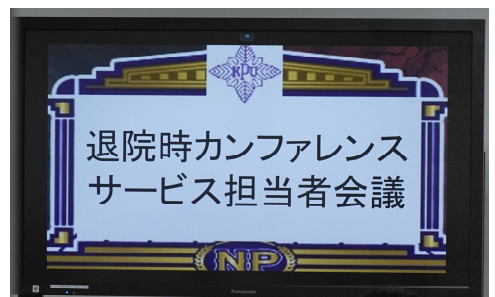


地域連携！そこまで語って委員会！
IN神戸薬科大学 2019
くすりにまつわるエトセトラ
～ホンマに助かる、地域での顔の見える薬剤師になるには？～



＜パネリスト＞

往診医師 薬剤師 訪問看護師
訪問介護員 介護支援専門員
施設相談員 他(順不同)





最後に、「明日から行う連携行動」について発表してもらいました。

アンケート(抜粋)

- ・垂水区で行われている「エナガの会」のご様子が伝わってきました。とりあえず、明日からできることから、地域に戻って実行していきたいと思いました。
- ・このような先進地の事例のグループワークは、とてもわかりやすい。
- ・多職種連携における生の声を聴くことができ、大変参考になりました。自ら行動してみようとする姿勢が良い影響を及ぼすことにつながっていくと感じました。
- ・更に在宅の研修を重ねたいと思います。
- ・楽しく多職種の仕事について学べた。
- ・時間がないと言って逃げ続けていた自分に大きな反省があった。
- ・ディスカッションの形式でよかったです。また参加したいと思います。
- ・同じグループに病院薬剤師の人がいて、入院時の持参薬の話などが聞けてよかった。
- ・他職種との連携を具体的な例をもとに相談することができ、同じ薬剤師でも様々な意見があり視野が広まった。

etc

